# 国際関係と世論

真　鍋　一　史

## はじめに

この論文では、日本と米国と中国との関係に焦点を合わせながら、国際関係と世論という問題について考察を展開する場合に必要になってくる実証的データを提供することをめざしている。それは、筆者が参加した「日本・米国・中国における世論とマス・メディア調査」のデータである。ここで筆者自身による調査データを取り上げるのは、このテーマに関しては、「質問紙調査（survey research）」がほかにはほとんど見当たらないということによる。もちろん広く解釈すれば、全くないわけではなく、たとえば読売新聞社と中国社会調査系統による「日中共同世論調査」（読売新聞、1988年、9月24日付朝刊紙面）など、メディア各社が実施してきた「世論調査（public opinion poll）はやはり貴重なデータといわなければならない。ただ、この種の世論調査に関しては、つぎの3点で問題なしとしない。それは、これらの調査が「世論（意見）調査」であることから、あるいは当然のことといえるかもしれないが、①そこで用いられる質問項目が時事的、部分的、短期的な事柄を中心に作成されており、人びとのものの見方、考え方、感じ方についての一般的、包括的、長期的な側面への目配りがなされていない、②そこで用いられる質問項目が「ポール質問（poll question）」と呼ばれる賛否二分法タイプの形式になっており、人びとの質問への反応をある段階的な程度の問題として捉える「尺度化（scaling）」の試みがなされていない、③それらの世論調査は人びとの意見（世論）の集合的な分布を知ろうとする「記述志向型調査」であって、人びとのものの見方、考え方、感じ方のパターンや構造を解明しようとする「分析志向型調査」ではない、ということである[1]。

さて、つぎに具体的なデータの紹介に移るにさきだって、「国際関係と世論」というテーマの重要性について考えておかなければならない。そこで、まず国際関係であるが、ここではそれを「地球社会時代」という認識の視座から捉えていきたい。たとえば、E. O. ライシャワーは現代を「地球社会の時代」と呼んでおり[2]、D. C. バーンランドも「地球的村落への時代」と称している[3]。では、このような時代においては、どのような社会的変化が起きているかというと、「国際コミュニケーション（交通、通信、人的交流）の拡大」や「地球的問題（人口問題、資源問題、環境問題）の台頭」などがあげられる。こうした時代の方向性は、これまで国連のいくつかの会議で掲げられたスローガンによく現れている。それは、たとえば「かけがえのない地球（Only One Earth）」「世界共同体（World community）」「宇宙船地球号（Space Ship Earth）」「地球市民（Planetary Citizen）」「地球家族（Global Family）」「地球種族（Human Race）」などである。これらのスローガンには、世界の国ぐにがもはや単独では諸問題を解決することができず、地球全体の何らかの連帯

1）ここでは、①②③のそれぞれについて、前者の側面に焦点を合わせるのが Pubilic Opinion Poll、後者の側面に重点を置くのが Survey Research という理解に立っている。真鍋一史「意見調査／態度調査」『新社会学辞典』（有斐閣、1993年）37－38頁を参照されたい。

2）E. O. Reischauer、西山千訳『地球社会の教育―世界市民意識の創造―』（サイマル出版会、1974年）。

3）D. C. Barnlund、西山千訳『日本人の表現構造』（サイマル出版会、1973年）。

が常に求められるという「地球主義（Globalism）」の理念がはっきり打ち出されているのである。このような考え方からしても、現代においては国際間の関係が以前にまして重要なものとなりつつあることが理解できるのである[4]。

つぎに世論についてであるが、ここでも理念的な議論と実証的な議論が可能である。一方は統治の正統性の根拠を世論におくことの是否をめぐる価値判断であり、他方は現実に世論が国際間係や外交政策にどのような影響を与えているかについての現実認識である。前者の側面については、つぎのような議論の内容をおさえておく必要があるであろう。世論が国際関係の分析において重要な位置を占めるようになってきたことについては、何よりも民衆の政治参加という時代的背景がある。たとえばG. A. アーモンドとS. ヴァーバはつとにつぎのように論じている。

「テクノロジーや組織の合理性を求める動きは世界中で一様に見られるのだが、政治的変動がどの方向に向かっているかはあまり明確でない。しかしこの新しい世界的な政治文化の一つの局面ははっきりしている。それは参加の政治文化となるだろう。仮にいま世界中で政治革命が進行しているとすれば、それは参加の噴出と呼びうるものである[5]。」

しかし、すべての人が世論の重要性の増大について肯定的な見方をしているわけではなく、このような傾向に否定的な見方をしている論者もいる。たとえば世論研究の先駆者であるW. リップマンもその一人であった。それはつぎのような著述の内容から明らかであろう。

「不幸な事実は、有力な世論が、重要な時点において破壊的なまでに間違っていたことが多いということである。国民は、事情に通じた責任のある役人の判断に対して拒否権を行使した。かれらは、通常、どうすることがより賢明であるか、何が必要であり何がより緊急であるかをわきまえている政府をして、あまりに少なきを要求するがゆえに遅きに失せしめたり、あるいはあまりに多くを要求するために長きに過ぎせしめたり、平時において過度に平和的であり戦時において過度に好戦的であらしめたり、あるいは交渉において過度に中立的または宥和的であったり、あるいはまた過度に非妥協的であらしめたりした[6]。」

しかし、このような議論もしっかりとした現実認識を踏まえたものでなければならないことはいうまでもなく、そのためにもつぎの実証科学的な分析が要求されることになるのである。

では、国際関係や外交政策に対する世論の影響についての実証的研究にどのようなものがあるかというと、それはその研究の型（あるいは様式）によって、「モデル的研究」と「事例的研究（ケース・スタディ）」に分けられる。

まず前者の例としてR. ワイスバーグのモデルをあげておきたい[7]。それは世論と政策（外交政策も含めて）との関係についての一種の仮説的なモデルであり、①世論の動向と政策の変化とがプラスに相関する「共変モデル」、②世論と政策との一致（共変）が現実に問題となるのは世論が過半数に達するかどうかというところで決まるとする「過半数モデル」、③政策の実施によって世論の要求が充足されるということで世論の動向と政策の方向がマイナスに相関する「満足モデル」、などである。

つぎに後者の例としてD. C. ヘルマンによる「日ソ平和交渉（1956年）の事例分析」を取り上げたい[8]。ヘルマンは世論が影響を与える仕方を、①「大衆的ムード」あるいは「世論の風潮（climate of opinion）と、②特定の個人（opinion leader）、団体、マス・メディアによって表明された「意識的世論」、に区別した上で、とくに①の形の世論のインパクトについて、つぎのような分析結果を示

4）真鍋一史「国際化を日本の視座から考える」（渡辺文夫、高橋順一編『地球社会時代をどう捉えるか—人間科学の課題と可能性—』ナカニシヤ出版、1992年）を参照されたい。

5）G. A. Almond と S. Verba、石川一雄ほか訳『現代市民の政治文化』（勁草書房、1974年）3頁。

6）W. Lippmann, *Essays in the Public Philosophy* (Little, Brown, 1955), pp. 23-24. なお訳文は、D. C. Hellmann, 渡辺昭夫訳『日本の政治と外交—日ソ平和交渉の分析—』（中公新書、1970年）10頁によった。

7）R. Weissberg, Public Opinion and Popular Government (Prentice-Hall, 1976), pp. 81-93. 真鍋一史『世論とマス・コミュニケーション』（慶応通信、1983年）、12—14頁。

8）D. C. Hellmann, 前掲訳書。

している。

「ここで大事なことは、そのような世論の風潮が影響を及ぼすのは外交政策の最も一般的な目標に対してであり、それが主として重要な意味をもつのは、さし迫った戦争の危機に関連した決定のような、劇的かつ甚大な意義を有する数少ない決定に関してだけである、という事実である。多くの外交問題についてそうであるように、大衆的ムードが明白なかたちで表わされていない場合には、それは政府による政策決定の過程に対して不確実で間接的な影響をもつにすぎない[9]。」

さて、日本と米国と中国の3か国間の国際関係において、それぞれの国の世論——その最も広い意味での——が、その現状と将来の方向に対してどのような影響を及ぼしているかについては慎重な検討と、そのための広範な実証研究が必要になってくることはいうまでもない。しかし日米中いずれの国においても、今後それぞれの国の世論が何らかの形でその国の外交政策の外堀を決定するという方向にむかっていくであろうことは間違いなさそうである。その意味で、ここでは、今後の研究への1つの踏石として、筆者による調査研究のデータを紹介しておきたい。それは、日中関係の諸相といえども、単に日中2か国だけの関係として捉えるよりも日米中の3か国間の関係のなかで摑むほうがより有効であるという認識のもとに実施された「日本・米国・中国における世論とマス・メディア調査」のデータである[10]。

9）同訳書、12－13頁。

10）第1回調査の結果はつぎの報告にもとづいている。真鍋一史「日本・米国・中国における世論とマス・メディア調査—緊張関係と相互依存—」(『アジア時報』、295号、1994年)。なお1995年11月に第2回調査が実施された。

# I．日本・米国・中国における世論とマス・メディア
## ——第1回調査（1993年～1994年）の結果——

日本・米国・中国の3か国は経済的な側面においてきわめて緊密な相互依存の関係にある。それはこの3か国間のお互いの年間貿易額が数100億ドルという巨大なものになっていることからも明らかである。とくに、いわゆる超大国の覇権によって世界の趨勢が支配されるということに、ようやく変化の出てきた時代にあっては、このような側面からする国際関係はますます重要なものとなってきている。

しかし国際間の交流は経済的な側面にとどまるものではない。現在、さまざまのレベルの社会的・文化的な交流がもはや後もどりできないまでに進展しつつある。ところが、このような相互依存の進展の障害となる要因も相変らず存在している。それは制度的な要因以外では心理的な要因が大きい。「アジア・太平洋地域と世界の将来は米国・中国・日本が安定した関係を構築できるかどうかにかかっている。」（リー・クアンユー・シンガポール上級相）という認識に端的に示されているように、今後、3か国はお互いにより緊密な友好関係を作りあげていかなければならないが、そのためには何よりもそれぞれ国民がお互いに理解し合うということが大切になってくる。それはそのような国民の相互理解が今後の世界において各国の対外政策の外掘を決定するという方向がより強くなると考えられるからにほかならない。そして、その場合の国際理解とは、単なる知的理解を越えて、「エンパシー（感情移入）」や「シンパシー（同感）」を通して、自己の存在を他者の中に置いて、その他者を理解するという仕方でなければならない。

以上のような問題関心から、「日本・米国・中国における世論とマス・メディアに関する調査」が実施された。調査の概要については表1のとおりである。この調査はこの領域における初めての試みであり、いわばパイロット・スタディといったものであり、その調査対象となった地域と回答者が3か国の母集団を統計的に代表しているかというと、それについては「学歴」「職業」などの点でかなりハイ・レベルのほうへの偏り（バイアス）が出ているなどの問題があることは否定できない（表2）。しかしこの層がある意味で社会の「鏡」「ものさし」「リトマス試験紙」となっているとするならば、そのものの考え方、感じ方、行動の仕方を捉えることで、社会の動向の予測指標を得ることになるとも考えられるのである。

### 1　それぞれの2か国間での重要な国際問題

ここで、それぞれの2国間での重要問題（表3）について検討する場合、まず3つの調査対象国で調査方法に違いがあったことをおさえておかなけ

**表1　調査の概要**

| | 日本調査 | 中国調査 | アメリカ調査 |
|---|---|---|---|
| 調査対象 | 東京都文京区一般成人男女 | 北京市海淀区一般成人男女 | オハイオ州フランクリン・カウンティ一般成人男女 |
| サンプリング | 選挙人名簿から無作為抽出 | 住民名簿から無作為抽出 | 電話帳から無作為抽出 |
| 調査方法 | 個別面接調査 | 個別面接調査 | 電話調査 |
| 有効回収数 | 434名 | 515名 | 727名 |
| 調査時期 | 1993年10月 | 1994年1月 | 1993年10月 |
| 調査主体 | 三上俊治（東洋大学社会学部） | 劉志明（中国人民大学世論研究所）・真鍋一史（関西学院大学社会学部） | Lee B. Becker・Jerry Kosicki（オハイオ州立大学ジャーナリズム学部） |

**表2 調査対象の性格**

単位：%

| | 日本調査 | | 中国調査 | | アメリカ調査 |
|---|---|---|---|---|---|
| 性別 | 男 | 47.9 | | 53.2 | 41.4 |
| | 女 | 52.1 | | 46.8 | 56.4 |
| | 無回答 | 0.0 | | 0.0 | 1.9 |
| 年齢 | ～19歳 | 0.0 | | 3.9 | 1.9 |
| | 20～29 | 22.1 | | 23.5 | 21.2 |
| | 30～39 | 21.4 | | 28.3 | 25.2 |
| | 40～49 | 18.7 | | 26.6 | 19.4 |
| | 50～59 | 19.1 | | 10.3 | 10.6 |
| | 60～69 | 18.7 | | 11.5 | 18.6 |
| | 無回答 | 0.0 | | 1.0 | 3.2 |
| 学歴 | ～中学校 | 8.5 | | 17.4 | 3.3 |
| | 高等学校 | 27.9 | | 34.8 | 25.4 |
| | 大学～ | 54.4 | | 46.2 | 61.1 |
| | その他 | 7.4 | | 0.8 | 0.0 |
| | 無回答・わからない | 3.2 | | 0.8 | 0.7 |
| 職業 | 自営業経営 | 12.2 | 個人経営者 | 1.7 | |
| | 自由・専門技術職 | 15.9 | 教育・科学・医療 | 10.9 | |
| | 管理的職業 | 10.1 | 党・政府幹部・企業管理 | 35.2 | |
| | 事務・販売的職業 | 13.6 | 商業・サービス・会社員 | 12.2 | |
| | 労働的職業 | 1.4 | 労働者 | 13.8 | |
| | 主婦 | 27.6 | 家事業者 | 0.2 | |
| | 学生 | 5.8 | 学生 | 9.7 | |
| | 無職 | 4.6 | 無職・退職 | 9.9 | |
| | その他 | 7.1 | その他 | 3.3 | |
| | | | 軍人 | 1.8 | |
| | | | 農林牧漁業者 | 0.2 | |
| | 無回答 | 1.6 | 無回答 | 1.2 | |

ればならない。つまり米国調査では「電話調査法」が取られたのに対して、日本調査と中国調査では「個別面接調査法」が用いられたということであり、また「米国調査」と「日本調査」では、「最も重要な問題」がopen-endedの形式で尋ねられたのに対して、「中国調査」では――調査対象国の事情を考慮に入れて――それがclosed-endedの形式で聞かれたということである。このような調査方法の違いが、調査結果に影響を及ぼしたと考えられるが、その最も顕著な点は「わからない・無回答」で、これは「米国調査」と「日本調査」に出てくる。もっとも「日本調査」の場合はマルチ・アンサー形式で回答を処理しているので単純にその%の数値を比較することはできない。しかし、それでも相対的な比較は可能であり、そのような試みから、自分の国がかかわらない外国どうしの国際問題については「わからない・無回答」の%が高くなるということがわかる。これは自分の国がかかわらない外国どうしの国際問題についての人びとの認知度は低いということであろう。また自分の国がかかわる場合においても、どの国とのかかわりであるかによって「わからない・無回答」の%に差違が出てくるが、その%の高さはいわゆる「社会的距離（social distance）感」を示しているという仮説を立てておきたい。そうだとするならば、日本の回答者は中国よりも米国に対する「社会的距離感」が小さく、米国の回答者は中国よりも日本に対するそれが小さいということになる。

つぎに、重要問題の具体的な内容を見ていくならば、小さな点での違いはしばらく置くとして、大きな傾向としては、「日本と米国」「日本と中国」

**表3　それぞれの2か国間での重要な国際問題**　　単位：%

| | 日本と米国 | | 日本と中国 | | 米国と中国 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| 日本調査 | 貿易不均衡・経済摩擦 | 57.5 | 戦争責任・戦後処理 | 21.8 | 人権問題 | 14.3 |
| | 市場開放・自由化 | 25.2 | 経済投資・技術援助 | 5.7 | 核・武器・軍事的問題 | 10.9 |
| | 軍事・防衛問題 | 2.8 | 貿易不均衡・経済問題 | 5.0 | 経済制裁・経済問題 | 4.8 |
| | 円高問題 | 1.8 | 不法入国・難民・留学生 | 4.3 | 不法入国・難民・亡命 | 1.8 |
| | 文化摩擦・コミュニケーション・ギャップ | 1.4 | 核・武器・軍事的問題 | 3.0 | | |
| | | | 人権問題 | 2.7 | | |
| | | | 中国の公害・環境問題の日本への影響 | 2.0 | | |
| | | | 領土問題 | 0.9 | | |
| 米国調査 | 貿易不均衡 | 45.7 | 過去の問題 | 4.2 | 人権問題 | 20.4 |
| | 関税障壁 | 10.9 | 文化的衝突 | 3.9 | 政治体制の違い | 9.0 |
| | 日本企業のアメリカ進出 | 5.7 | 領土問題 | 2.4 | 貿易制限 | 5.1 |
| | 文化の違い | 2.3 | 人権問題 | 2.0 | 軍事的緊張 | 5.0 |
| | わからない | 23.2 | わからない | 78.8 | わからない | 48.5 |
| 中国調査 | 貿易不均衡 | 42.4 | 貿易不均衡 | 22.8 | 人権問題 | 46.5 |
| | 円高問題 | 11.3 | 戦争責任・賠償問題 | 22.3 | 最恵国待遇・経済制裁・貿易摩擦 | 28.9 |
| | 日本市場の閉鎖性 | 11.6 | 日本企業の中国進出 | 17.2 | 政治体制の違い | 14.5 |
| | 日本企業のアメリカ進出 | 9.1 | 領土問題 | 14.9 | 軍事的緊張 | 13.0 |
| | 日米のアジア政策の違い | 6.1 | 政治体制の違い | 9.3 | | |
| | 米国の対日強硬策 | 5.5 | 人権問題 | 4.8 | | |
| | | | 自衛隊の海外派遣 | 4.5 | | |

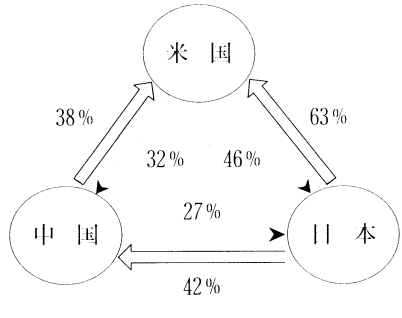
「米国と中国」のいずれの場合においても、3か国の調査結果は驚くほど類似している。つまり、日米中のいずれの国においても、日米間では「貿易不均衡」、日中間では「戦争責任」、米中間では「人権問題」が、それぞれ最大のイシュー（issue）と認知されていることがわかるのである。ただ問題はそれぞれの国において、その同じイシューがどう取り上げられ、どう論じられているかということで、その分析が今後の重要な課題いわなければならない。

## 2　お互いの国に対する好感度

お互いの国に対する好感度については図1のとおりである。3か国の回答者が自分の国を除く、ほかの2か国について「好き」か「嫌い」かと聞かれた場合、1つの例外を除いて、「好き」の%が「嫌い」のそれを——その差は10%～43%までとかなりの幅があるものの——越える。その例外は、中国の日本に対する回答の場合で、その場合は「嫌い」の%が「好き」のそれより10%強ほど多くなっている。

つぎに、「好き」の%にもとづいて「思い型」（ある国を「好き」とする%がその国から「好き」とされる%よりも高い型）、と「思われ型（ある国を「好き」とする%がその国から「好き」とされる%よりも低い型）を区別するならば、日本は米国、

**図1　お互いの国に対する好感度**
**——「好き」という回答の%——**



中国のどちらに対しても「思い型」、米国は日本、中国のどちらからも「思われ型」、中国は日本からは「思われ型」、米国に対しては「思い型」となっていることがわかる。

さらに、ある国のほかの2か国に対する好感度を、その「好き」%の差違で見ていくならば、日本では中国よりも米国に対する%が高く（約20%）、米国では中国よりも日本に対する%が高く（約15%）、中国では日本よりも米国に対する%が高く（約10%）なっていることがわかる。

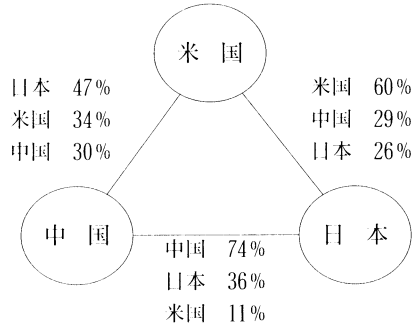
## 3　それぞれの2か国間の現在の関係の評価

図2から、「日本と米国」「米国と中国」「日本と中国」という3通りの2か国間の関係については、2つのケースを除いて、それぞれの関係を「よい」とする%のほうが「わるい」とする%よりも高くなっている。その2つのケースというのは、1つは中国の回答者の場合に「米中関係」が「わるい」とする者が「よい」とする者よりも多い（約10%）というケースであり——このことから中国のほうで「米中関係」がシリアスな問題となっていることがはっきりとわかる——、もう1つは米国の回答者の場合に「日中関係」が「わるい」とする者が「よい」とする者より多い（約5%）というケースである——もっとも後者のケースでは「よい」「わるい」ともにその%が小さく、とくにここで取り上げる必要もないのかもしれない——。

つぎに、2か国間の関係が「よい」という回答者の%を比較してみるならば、「日米関係」は日本より米国で、「米中関係」は中国より米国で、「日中関係」は日本より中国で、それぞれその評価の%が高いということがわかる。

自分の国以外の2か国の関係の評価についても興味深い結果が出ている。それは、米国、中国の場合は、自分の国以外の2か国間の関係についての評価の%のほうが、自分の国がかかわる2か国間の関係の評価の%にくらべて低くなっているのに対して、日本の場合はそれがまったく逆になっている——よその世界の出来事のほうがうまくいっていると思う——ということである。

**図2　現在の国際関係の評価**
**——「うまくいっている」という回答の%——**




## 4　それぞれの2か国間の関係の重要性の評価

3つの2か国間の関係の重要性の評価（図3）についても注目される結果となっている。

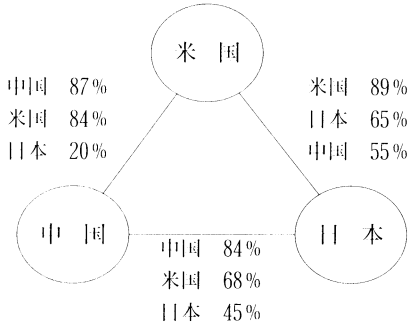
まず、どの2か国間の関係についても、それを「重要でない」とする回答者の%は低い——多くても10%どまり、だいたいが1%〜6%といったところである——。そして、どの国の回答者も自分の国とほかの国との関係の評価の%のほうがほかの国どうしの関係の評価の%よりも高いということがわかる。

つぎに、日本の場合、2か国間関係の重要性の評価の%が、ほかの2か国の場合にくらべて、相対的に低い傾向にある。とくに、日中関係について、その重要性の評価の%が、当事国の日本の回答者よりも非当事国の米国の回答者のほうで高いということは興味深い。

また、前述の好感度と、ここでの重要度をくらべて、両者で「思い」「思われ」の方向が一致していないということも注目される。例外は米中関係で、米中関係の場合は——その%の差は必ずしも大きなものとはいえないにしても——好感度でも、重要度でも、中国＞米国（＞は不等号、つまり中国の%のほうが米国の%よりも高いということを意味する）となっていて両者の方向が一致している。ところが日米関係の場合は好感度では日本＞米国となっているのに対して、重要度では日本＜米国、そして日中関係の場合は好感度では日本＞中国となっているのに対して、重要度では日本＜中国となっているのである。このことから国際イメージにおいては好感度と重要度が異なる軸（次元）を構成している——前者（好感度）の「完

結的＝感性的志向性」に対する、後者（重要度）の「手段的＝機能的志向性」という仮説が提示できる――と考えられるのである。さらに、2か国間の関係の現状の評価とくらべるならば、1つの例外を除いて「現状の評価」の％よりも「重要性の評価」の％のほうが高い――つまり2か国間の関係がうまくいっていないと思っている人でもその2か国間の関係は重要であると考えている――ということがわかる。その例外は日本の回答者の米中関係についての評価で、この場合、日本の回答者の47％が米中関係は「よい」としながらも、米中関係が「重要である」という回答者は20％にとどまっているのである。

**図3　国際関係の重要性の評価**
**――「重要である」という回答の％――**




## 5　お互いの国に対する知識度

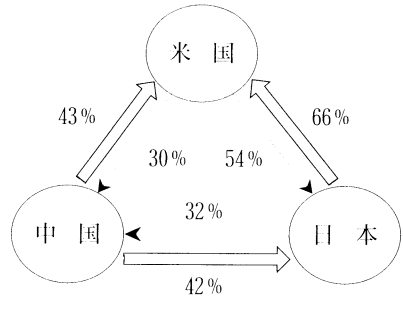
3か国の回答者がそれぞれほかの2か国についてどのくらい知っていると思っているかについては図4のような結果となった。

回答を「知っている（「よく知っている」＋「ある程度知っている」）と「知らない（「あまり知らない」＋「まったく知らない」）」に分けて、それぞれの国に対する3か国の回答者の知識度を検討するなら、「知っているの％＞知らないの％の型」と「知らないの％＞知っているの％の型」の2つの型があることがわかる。前者には「日本についての米国の回答者」と「米国についての日本の回答者」が、また後者には「日本および米国についての中国の回答者」と「中国についての日本および米国の回答者」が、それぞれあてはまる。つまり日米間ではお互いに知っているという回答が多いのに対して、中国については日本の回答者も米国の回答者も知らないとする者が多く、中国の回答者のほうでも日本・米国に対しては知らないとする回答が多いということで、3国間関係のなかで、知識度の面では中国が日本・米国から少し離れたところに位置しているといえる。

つぎに、「知っている」という回答の％で比較してみるならば、日米間では日本＞米国、米中間では中国＞米国、日中間では中国＞日本となり、現状、重要度、好感度の場合と同じく、それぞれの2か国間でその％が等しいというケースはまったくなく、つねにいずれか一方のほうでその％が高いという、いわば「意識のすれ違い現象」が見られるということは注目される。

さらに、この知識度の％をさきの好感度のそれと比較してみるならば、日米間、米中間のいずれの場合においてもその方向――つまりどちらの「思い」の％がより高いかといった点からするその方向――は、前者で日本＞米国、後者で米国＞中国で、まったく同じパターンが示されている。ところが日中間では知識度と好感度で異なるパターンが出ており、好感度では日本＞中国であるのに対して、知識度では中国＞日本となっている。このことから国際イメージにおいて知識度と好感度は異なる軸（次元）を構成している――「知ること」と「好きになること」は別のことである――ということがわかるのである。

**図4　お互いの国に対する知識度**
**――「知っている」という回答の％――**




## 6　マス・メディアによるお互いの国に関する情報への接触度

ここで取り上げた3か国においても、それぞれの一般市民がお互いに直接に接触し交流するということは、国際化の時代といわれる現在においても、いまだ限られたものといわなければならな

い。そこで普通の人びとの対外イメージは多くの場合メディア情報によって形成されていると考えられるのである。ここではマス・メディアによるお互いの国に関する情報への接触度について検討してみた。(図5・6)

調査結果における%の大小を便宜的に、①40%～50%台、②10%～20%台、③10%未満に分けて、それぞれを「大」「中」「小」と呼ぶことにする。

まず大きなレベルの%が見られるのは、どの国の情報かでは「日本」と「米国」、メディアでは「テレビ・ニュース」と「新聞」である。具体的にいうなら、中国の回答者の51%がテレビ・ニュースで、42%が新聞で「ほぼ毎日」**日本**の情報に接しており、同じく57%がテレビ・ニュースで、43%が新聞で**米国**の情報に触れている。中国の回答者の外の世界の情報への接触度の高さには驚かされる。

つぎに中レベルの%は、日本の回答者がテレビ・ニュース、テレビ・コマーシャル、新聞で「ほぼ毎日」**米国**の情報を、そして、米国の回答者が新聞、テレビ・コマーシャルで「ほぼ毎日」**日本**の情報を取り入れているというところで見られる。

接触度の%の比較的高い「テレビ・ニュース」と「新聞」を取り上げて、それぞれ2か国間の情報接触度バランスを検討してみる。好感度の場合の「思い型」「思われ型」と同じアイディアでどちらの%がより高いかによってその方向を標示するという仕方を取るならば、その全体のパターンが知識度のそれときわめて似たものとなることがわかる。それも「新聞」でのパターンよりも「テレビ・ニュース」のそれのほうでより近似である。というのは、前者の場合は日米間で日本と米国がほぼ同じ%になっているのに対して、後者の場合は、知識度についてと同様に、日本＞米国となっているからである。従来からも日本と米国との間の情報量（とそれにもとづく情報接触度）に関して「日本が望遠鏡のこちら側からアメリカを見ている——したがって実際より大きく見える——のに対して、アメリカはそのまま向こう側から日本を見ている——したがって実際より小さく見える——」という比喩が用いられてきたが、この命題がここではっきりと検証されたといえるのであり、この傾向が米中間（米＜中)、日中間（日本＜中国）で、さらに強く現れていることがわかるのである。

**図5　新聞によるお互いの国に関する情報への接触度**
**——「ほぼ毎日」という回答の%——**

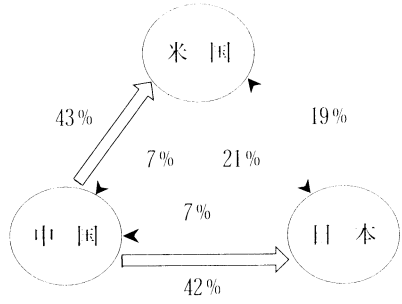
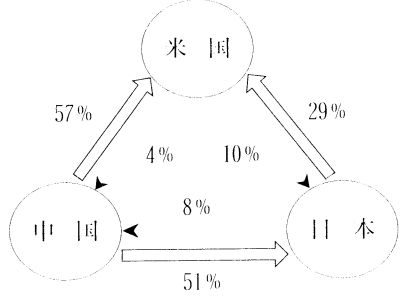



**図6　テレビ・ニュースによるお互いの国に関する情報への接触度**
**——「ほぼ毎日」という回答の%——**




さて、以上において、1993年－1994年実施の「日本・米国・中国における世論とマス・メディアに関する調査」の結果をごく簡潔に報告してきた。すでに述べたように、この調査は一種のパイロット・スタディであり、調査方法についてさまざまの問題を残しているということはいうまでもない。しかしこのような限界にもかかわらず、3か国の回答者のお互いの国に対するかかわり合いの意識——認知・感情・評価——の構造と、マス・メディアによる情報接触行動のパターンには重大な差違があることが浮き彫りにされてきたといわなければならない。その点についてここでもう一度諸知見をまとめておくだけの紙面の余裕はない。そこで、最後に、そのような差違の構造を、いくつかの時点をとって定点観測し、それらの諸結果を時系列的に比較するという試みが、今後の最大の課題であるということに指摘して筆を置くことにする。

# ＜付録1＞
## 国際比較のためのクロス集計表

**表1　お互いの国に対する好感度**　（単位は%）

| | 好き（非常に＋まあ） | 嫌い（非常に＋やや） |
|---|---|---|
| 日本は： | | |
| 日本のサンプル | | |
| 中国のサンプル | 26.8 | 38.5 |
| 米国のサンプル | 46.3 | 13.2 |
| 中国は： | | |
| 日本のサンプル | 41.5 | 27.9 |
| 中国のサンプル | | |
| 米国のサンプル | 32.4 | 17.8 |
| 米国は： | | |
| 日本のサンプル | 62.9 | 20.1 |
| 中国のサンプル | 37.8 | 28.0 |
| 米国のサンプル | | |

（注）サンプル・サイズ：日本（434），中国（515），米国（727）

**表2　それぞれの2か国間の現在の関係の評価**　（単位は%）

| | よい（非常に＋まあ） | わるい（非常に＋やや） |
|---|---|---|
| 米国と日本の関係は： | | |
| 日本のサンプル | 25.6 | 9.7 |
| 中国のサンプル | 28.7 | 16.9 |
| 米国のサンプル | 59.6 | 11.3 |
| 米国と中国の関係は： | | |
| 日本のサンプル | 47.2 | 8.3 |
| 中国のサンプル | 29.6 | 41.5 |
| 米国のサンプル | 33.7 | 23.0 |
| 日本と中国の関係は： | | |
| 日本のサンプル | 36.2 | 9.2 |
| 中国のサンプル | 74.2 | 4.3 |
| 米国のサンプル | 11.4 | 16.1 |

（注）サンプル・サイズ：日本（434），中国（515），米国（727）

**表 3　それぞれの 2 か国間の関係の重要性の評価**　（単位は%）

| | 重要である（非常に＋まあ） | 重要でない（まったく＋あまり） |
|---|---|---|
| 米国と日本の関係は： | | |
| 日本のサンプル | 65.2 | 1.2 |
| 中国のサンプル | 55.0 | 10.2 |
| 米国のサンプル | 89.3 | 4.0 |
| 米国と中国の関係は： | | |
| 日本のサンプル | 20.3 | 0.9 |
| 中国のサンプル | 87.2 | 4.7 |
| 米国のサンプル | 84.3 | 5.5 |
| 日本と中国の関係は： | | |
| 日本のサンプル | 44.5 | 1.7 |
| 中国のサンプル | 83.7 | 3.9 |
| 米国のサンプル | 68.1 | 6.1 |

（注）サンプル・サイズ：日本（434），中国（515），米国（727）

**表 4　お互いの国に対する知識度**　（単位は%）

| | 知っている（よく＋少し） | 知らない（まったく＋あまり） |
|---|---|---|
| 日本について： | | |
| 日本のサンプル | | |
| 中国のサンプル | 41.8 | 55.7 |
| 米国のサンプル | 54.1 | 43.0 |
| 中国について： | | |
| 日本のサンプル | 32.0 | 64.2 |
| 中国のサンプル | | |
| 米国のサンプル | 30.1 | 66.2 |
| 米国について： | | |
| 日本のサンプル | 65.9 | 31.6 |
| 中国のサンプル | 43.3 | 54.2 |
| 米国のサンプル | | |

（注）サンプル・サイズ：日本（434），中国（515），米国（727）

**表5　マス・メディアによるお互いの国の情報への接触度**　（単位は%）

| | 日本の情報 | | 中国の情報 | | 米国の情報 | |
|---|---|---|---|---|---|---|
| | ほぼ毎日 | 週に2〜3回 | ほぼ毎日 | 週に2〜3回 | ほぼ毎日 | 週に2〜3回 |
| テレビ・ニュース | | | | | | |
| 日本のサンプル | | | 8.1 | 12.4 | 28.5 | 19.8 |
| 中国のサンプル | 51.3 | 21.1 | | | 57.3 | 18.1 |
| 米国のサンプル | 9.8 | 27.4 | 3.7 | 13.2 | | |
| テレビ広告 | | | | | | |
| 日本のサンプル | | | 5.3 | 11.1 | 19.4 | 21.9 |
| 中国のサンプル | 10.7 | 8.0 | | | 9.5 | 7.6 |
| 米国のサンプル | 21.0 | 13.3 | 3.3 | 6.5 | | |
| テレビ・ドラマ・映画 | | | | | | |
| 日本のサンプル | | | 6.0 | 7.4 | 15.9 | 16.4 |
| 中国のサンプル | 1.7 | 0.6 | | | 1.0 | 2.5 |
| 米国のサンプル | 3.2 | 7.3 | 1.5 | 3.0 | | |
| 新聞 | | | | | | |
| 日本のサンプル | | | 6.9 | 9.2 | 18.9 | 16.4 |
| 中国のサンプル | 41.6 | 19.6 | | | 43.1 | 19.2 |
| 米国のサンプル | 20.9 | 21.2 | 7.3 | 13.9 | | |
| 雑誌 | | | | | | |
| 日本のサンプル | | | 3.2 | 13.1 | 6.7 | 12.7 |
| 中国のサンプル | 6.2 | 5.6 | | | 5.2 | 4.9 |
| 米国のサンプル | 6.1 | 9.6 | 2.5 | 5.5 | | |
| 本 | | | | | | |
| 日本のサンプル | | | 2.3 | 17.1 | 6.5 | 12.2 |
| 中国のサンプル | 1.9 | 3.1 | | | 2.3 | 3.3 |
| 米国のサンプル | 3.4 | 3.3 | 1.7 | 2.8 | | |

（注）サンプル・サイズ：日本（434），中国（515），米国（727）

# ＜付録2＞
## 中国調査の概要・調査票・単純集計

### Ⅰ．中国調査の概要

1. 調査地域：北京市海淀区（主な大学と研究機構が集中する文教区）
総人口：144万人
人口構成(1990年人口調査結果にもとづいて作成)
(1) 性別：男性52.9%　女性47.1%
(2) 年性別：

| | |
|---|---|
| 15－19才 | 11.4% |
| 20－24才 | 17.9% |
| 25－29才 | 16.5% |
| 30－34才 | 14.1% |
| 35－39才 | 11.2% |
| 40－44才 | 7.3% |
| 45－49才 | 6.6% |
| 50－54才 | 8.6% |
| 55－59才 | 1.7% |
| 60－64才 | 1.1% |
| 65才以上 | 3.5% |

(3) 学歴別：

| | |
|---|---|
| 1. 字が読めない | 6.4% |
| 2. 小学校 | 17.6% |
| 3. 中学校 | 26.3% |
| 4. 高校 | 23.1% |
| 5. 大学 | 26.6% |

(4) 職業別

| | |
|---|---|
| 1. 労働者 | 23.4% |
| 2. 商業・サービス業 | 11.5% |
| 3. 教育・科学・医療業職 | 20.3% |
| 4. 党・政府幹部 | 6.2% |
| 5. 会社職員 | 5.7% |
| 6. 学生 | 14.8% |
| 7. 農林牧漁 | 2.8% |
| 8. 家事 | 1.3% |
| 9. 退職あるいは無職 | 11.0% |
| 10. その他 | 3.0% |

2. 調査方法

この調査は中国人民大学世論研究所によって実施された。サンプルの総数は550で、11の住民委員会に平均50サンプルずつを割当て、調査員が住民委員会で住民名簿を閲覧し、等間隔サンプリングにより50のサンプルを抽出し、サンプルの家を訪問し、対象者に面接調査をした。調査は1994年1月3日から9日までの7日間にわたって行われた。有効回収数は515（93.6%）となった。

### Ⅱ．中国調査の調査票と単純集計

問題1　はじめにあなた自身のことについておたずねします。

| | | |
|---|---|---|
| A．性別： | | |
| 男性 | 274 | 53.2 |
| 女性 | 241 | 46.8 |
| B．年齢： | | |
| 18才未満 | 3 | 0.6 |
| 18－25才 | 103 | 20.2 |
| 26－35才 | 126 | 24.7 |
| 36－45才 | 138 | 27.1 |
| 46－55才 | 68 | 13.3 |
| 56－65才 | 50 | 9.8 |
| 66才以上 | 22 | 4.3 |
| 不明 | 5 | — |
| C．職業： | | |
| 1. 労働者 | 71 | 13.8 |
| 2. 商業・サービス業 | 28 | 5.5 |
| 3. 教育・科学・医療業職 | 56 | 11.0 |
| 4. 企業管理職 | 55 | 10.8 |
| 5. 党・政府幹部 | 126 | 24.8 |
| 6. 会社職員 | 35 | 6.9 |
| 7. 学生 | 50 | 9.8 |
| 8. 個人経営者 | 9 | 1.8 |
| 9. 農林牧漁 | 1 | 0.2 |
| 10. 家事 | 1 | 0.2 |
| 11. 退職あるいは無職 | 51 | 10.0 |
| 12. 軍人 | 9 | 1.8 |
| 13. その他 | 17 | 3.3 |

| | | |
|---|---|---|
| 不明 | 6 | — |

D．両親の職業：

①父親

| | | |
|---|---|---|
| 1. 労働者 | 105 | 22.0 |
| 2. 商業・サービス業 | 15 | 3.1 |
| 3. 教育・科学・医療業職 | 36 | 7.5 |
| 4. 企業管理職 | 28 | 5.9 |
| 5. 党・政府幹部 | 100 | 20.9 |
| 6. 会社職員 | 10 | 2.1 |
| 7. 学生 | 3 | 0.6 |
| 8. 個人経営者 | 4 | 0.8 |
| 9. 農林牧漁 | 24 | 5.0 |
| 10. 家事 | 10 | 2.1 |
| 11. 退職あるいは無職 | 90 | 18.8 |
| 12. 軍人 | 17 | 3.6 |
| 13. その他 | 36 | 7.5 |
| 不明 | 37 | — |

②母親

| | | |
|---|---|---|
| 1. 労働者 | 94 | 19.7 |
| 2. 商業・サービス業 | 8 | 1.7 |
| 3. 教育・科学・医療業職 | 41 | 8.6 |
| 4. 企業管理職 | 11 | 2.3 |
| 5. 党・政府幹部 | 35 | 7.3 |
| 6. 会社職員 | 9 | 1.9 |
| 7. 学生 | 1 | 0.2 |
| 8. 個人経営者 | 2 | 0.4 |
| 9. 農林牧漁 | 12 | 2.5 |
| 10. 家事 | 129 | 27.0 |
| 11. 退職あるいは無職 | 102 | 21.4 |
| 12. 軍人 | 4 | 0.8 |
| 13. その他 | 29 | 6.1 |
| 不明 | 38 | — |

E．学歴：

| | | |
|---|---|---|
| 1. 字が読めない | 5 | 1.0 |
| 2. 小学校 | 13 | 2.5 |
| 3. 中学校 | 72 | 14.1 |
| 4. 高校 | 179 | 35.0 |
| 5. 大学 | 238 | 46.6 |
| 6. その他 | 4 | 0.8 |
| 不明 | 4 | — |

F．あなたの家庭の生活程度はどのくらいのところだと思いますか。

| | | |
|---|---|---|
| 1. 上 | 3 | 0.6 |
| 2. 中の上 | 58 | 11.4 |
| 3. 中の中 | 287 | 56.5 |
| 4. 中の下 | 140 | 27.6 |
| 5. 下 | 20 | 3.9 |
| 不明 | 7 | — |

G．あなたは現在の生活に満足していますか、それとも不満ですか。

| | | |
|---|---|---|
| 1. 非常に満足している | 9 | 1.8 |
| 2. まあ満足している | 275 | 55.3 |
| 3. どちらともいえない | 66 | 13.3 |
| 4. やや不満である | 127 | 25.6 |
| 5. 非常に不満である | 20 | 4.0 |
| 不明 | 18 | — |

問題2　この一年間に、中国をめぐる国際環境にはどのような変化が起きたと思いますか。

| | | |
|---|---|---|
| 1. 非常によくなった | 90 | 18.0 |
| 2. 少しよくなった | 336 | 67.1 |
| 3. 変化はない | 20 | 4.0 |
| 4. 少し悪くなった | 40 | 8.0 |
| 5. 非常に悪くなった | 15 | 3.0 |

問題3　A）現在、中国と米国との間では、どのような問題が重要な懸案事項になっていると思いますか。いくつでもあげてください。

| | | |
|---|---|---|
| 1. 人権問題 | 366 | 71.1 |
| 2. 最恵国待遇 | 319 | 61.9 |
| 3. 武器拡散 | 83 | 16.1 |
| 4. アメリカの台湾への武器輸出問題 | 213 | 41.4 |
| 5. チベット問題 | 160 | 31.1 |
| 6. アメリカの対中経済制裁 | 192 | 37.3 |
| 7. 貿易摩擦 | 191 | 37.1 |
| 8. 北朝鮮の核疑惑をめぐる問題 | 51 | 9.9 |
| 9. 軍事的緊張 | 12 | 2.3 |
| 10. 不法入国者問題 | 38 | 7.4 |
| 11. 政治体制の違いから生じる問題 | 135 | 26.2 |
| 12. 文化の違いから生じる問題 | 73 | 14.2 |
| 13. その他 | 4 | 0.8 |

B）一番重要な問題はどれだと思いますか（番号で答えてください）。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1. | 人権問題 | 156 | 46.5 |
| 2. | 最恵国待遇 | 55 | 14.3 |
| 3. | 武器拡散 | 0 | 0.0 |
| 4. | アメリカの台湾への武器輸出問題 | 48 | 12.5 |
| 5. | チベット問題 | 3 | 0.8 |
| 6. | アメリカの対中経済制裁 | 25 | 9.1 |
| 7. | 貿易摩擦 | 21 | 5.5 |
| 8. | 北朝鮮の核疑惑をめぐる問題 | 3 | 0.8 |
| 9. | 軍事的緊張 | 2 | 0.5 |
| 10. | 不法入国者問題 | 0 | 0.0 |
| 11. | 政治体制の違いから生じる問題 | 56 | 14.5 |
| 12. | 文化の違いから生じる問題 | 5 | 1.3 |
| 13. | その他 | 1 | 0.3 |

問題4　A）現在、中国と日本の間では、どのような問題が重要な懸案事項になっていると思いますか。いくつでもあげてください。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1. | 人権問題 | 65 | 12.6 |
| 2. | 貿易不均衡の是正 | 200 | 38.8 |
| 3. | 戦争責任と賠償問題 | 245 | 47.6 |
| 4. | 日本自衛隊の海外派遣 | 80 | 15.5 |
| 5. | 釣魚島（尖閣諸島）など領土問題 | 175 | 34.0 |
| 6. | 中国の軍備増強 | 30 | 5.8 |
| 7. | 環境問題 | 36 | 7.0 |
| 8. | 日本企業の対中進出によって生じる問題 | 175 | 34.0 |
| 9. | 北朝鮮の核疑惑をめぐる問題 | 23 | 4.5 |
| 10. | 不法入国者問題 | 21 | 4.1 |
| 11. | 政治体制の違いから生じる問題 | 104 | 20.2 |
| 12. | 文化の違いから生じる問題 | 49 | 9.5 |
| 13. | その他 | 7 | 1.4 |

B）一番重要な問題はどれだと思いますか（番号で答えてください）。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1. | 人権問題 | 18 | 4.8 |
| 2. | 貿易不均衡の是正 | 86 | 22.8 |
| 3. | 戦争責任と賠償問題 | 84 | 22.3 |
| 4. | 日本自衛隊の海外派遣 | 17 | 4.5 |
| 5. | 釣魚島（尖閣諸島）など領土問題 | 56 | 14.9 |
| 6. | 中国の軍備増強 | 4 | 1.1 |
| 7. | 環境問題 | 6 | 1.6 |
| 8. | 日本企業の対中進出によって生じる問題 | 65 | 17.2 |
| 9. | 北朝鮮の核疑惑をめぐる問題 | 0 | 0.0 |
| 10. | 不法入国者問題 | 1 | 0.3 |
| 11. | 政治体制の違いから生じる問題 | 35 | 9.3 |
| 12. | 文化の違いから生じる問題 | 4 | 1.1 |
| 13. | その他 | 1 | 0.3 |

問題5　A）アメリカと日本との間では、どのような問題が重要な懸案事項になっていると思いますか。いくつでもあげてください。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1. | 対米貿易大幅黒字の問題 | 282 | 54.8 |
| 2. | 円高問題 | 213 | 41.4 |
| 3. | コメ自由化問題 | 133 | 25.8 |
| 4. | 米国の対日強攻策 | 114 | 22.1 |
| 5. | 日本市場の閉鎖性 | 142 | 27.6 |
| 6. | 安全保障問題 | 47 | 9.1 |
| 7. | 対アジア政策の食い違い | 78 | 15.1 |
| 8. | アメリカ国民の対日不信感 | 73 | 14.2 |
| 9. | 日本の嫌米感情 | 63 | 12.2 |
| 10. | 日本企業のアメリカ進出によって生じる問題 | 129 | 25.0 |
| 11. | ダンピング問題 | 66 | 12.8 |
| 12. | 文化の違いから生じる問題 | 24 | 4.7 |
| 13. | その他 | 11 | 2.1 |

B）一番重要な問題はどれだと思いますか（番号で答えてください）。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1. | 対米貿易大幅黒字の問題 | 154 | 42.4 |
| 2. | 円高問題 | 41 | 11.3 |
| 3. | コメ自由化問題 | 8 | 2.2 |

| | | |
|---|---|---|
| 4. 米国の対日強攻策 | 20 | 5.5 |
| 5. 日本市場の閉鎖性 | 42 | 11.6 |
| 6. 安全保障問題 | 11 | 3.0 |
| 7. 対アジア政策の食い違い | 22 | 6.1 |
| 8. アメリカ国民の対日不信感 | 11 | 3.0 |
| 9. 日本の嫌米感情 | 14 | 1.1 |
| 10. 日本企業のアメリカ進出によって生じる問題 | 33 | 9.1 |
| 11. ダンピング問題 | 14 | 3.9 |
| 12. 文化の違いから生じる問題 | 3 | 0.8 |
| 13. その他 | 0 | 0.0 |

問題6　あなたは中米関係、中日関係および日米関係は重要だと思いますか。それともそうは思いませんか。

1）中米関係

| | | |
|---|---|---|
| 非常に重要 | 248 | 49.4 |
| まあ重要 | 201 | 40.0 |
| どちらともいえない | 29 | 5.8 |
| あまり重要ではない | 17 | 3.4 |
| 少しも重要ではない | 7 | 1.4 |

2）中日関係

| | | |
|---|---|---|
| 非常に重要 | 211 | 43.5 |
| まあ重要 | 220 | 45.4 |
| どちらともいえない | 34 | 7.0 |
| あまり重要ではない | 14 | 2.9 |
| 少しも重要ではない | 6 | 1.2 |

3）日米関係

| | | |
|---|---|---|
| 非常に重要 | 93 | 20.1 |
| まあ重要 | 190 | 41.0 |
| どちらともいえない | 127 | 27.4 |
| あまり重要ではない | 43 | 9.3 |
| 少しも重要ではない | 10 | 2.2 |

問題7　あなたは現在の中米関係、中日関係、日米関係をどう思いますか。

1）中米関係

| | | |
|---|---|---|
| 非常にいい | 7 | 1.4 |
| まあいい | 145 | 29.5 |
| どちらともいえない | 126 | 25.6 |
| やや悪い | 200 | 40.7 |
| 非常に悪い | 14 | 2.8 |

2）中日関係

| | | |
|---|---|---|
| 非常にいい | 123 | 4.7 |
| まあいい | 359 | 72.8 |
| どちらともいえない | 89 | 18.1 |
| やや悪い | 16 | 3.2 |
| 非常に悪い | 6 | 1.2 |

3）日米関係

| | | |
|---|---|---|
| 非常にいい | 11 | 2.4 |
| まあいい | 137 | 29.4 |
| どちらともいえない | 231 | 49.6 |
| やや悪い | 83 | 17.8 |
| 非常に悪い | 4 | 0.9 |

問題8　中米関係、中日関係および日米関係は、今後数年間にどのような方向に進むと思いますか。

1）中米関係

| | | |
|---|---|---|
| 非常によい方向に進む | 35 | 7.0 |
| まあよい方向に進む | 299 | 60.0 |
| どちらともいえない | 120 | 24.1 |
| 少し悪い方向に進む | 39 | 7.8 |
| 非常に悪い方向に進む | 5 | 1.0 |

2）中日関係

| | | |
|---|---|---|
| 非常によい方向に進む | 83 | 17.0 |
| まあよい方向に進む | 307 | 63.0 |
| どちらともいえない | 89 | 18.3 |
| 少し悪い方向に進む | 7 | 1.4 |
| 非常に悪い方向に進む | 1 | 0.2 |

3）日米関係

| | | |
|---|---|---|
| 非常によい方向に進む | 17 | 3.6 |
| まあよい方向に進む | 159 | 33.8 |
| どちらともいえない | 247 | 52.4 |
| 少し悪い方向に進む | 46 | 9.8 |
| 非常に悪い方向に進む | 2 | 0.4 |

問題9　中国の対米、対日外交姿勢をどう思いますか。

1）対米関係

| | | |
|---|---|---|
| 強硬すぎる | 7 | 1.4 |
| 少し強硬 | 86 | 17.6 |
| 適当 | 191 | 39.1 |
| 少し弱い | 179 | 36.7 |
| 弱すぎる | 25 | 5.1 |

2）対日関係

| | | |
|---|---|---|
| 強硬すぎる | 1 | 0.2 |
| 少し強硬 | 26 | 5.4 |
| 適当 | 334 | 69.2 |
| 少し弱い | 101 | 20.9 |
| 弱すぎる | 21 | 4.3 |

問題10　あなたは次にあげるようなメディアで日本について読んだり、見たり、聞いたりすることがどの程度ありますか。

| | ほぼ毎日 | 週に2〜3回 | 週に1回位 | 月に2〜3回 | 月に1回位 | 年に数回位 | まったく見ない |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| テレビ | 264(57.6) | 109(23.8) | 41(9.0) | 16(3.5) | 15(3.3) | 4(0.9) | 9(2.0) |
| ラジオ | 133(42.1) | 79(25.0) | 37(11.7) | 19(6.0) | 10(3.2) | 18(5.7) | 20(6.3) |
| 新聞 | 214(52.8) | 101(24.9) | 51(12.6) | 21(5.2) | 3(0.7) | 7(1.7) | 8(2.0) |
| 雑誌 | 32(12.9) | 29(11.6) | 49(19.7) | 95(18.1) | 31(12.4) | 28(11.2) | 35(14.1) |
| 本 | 10(4.7) | 16(7.5) | 26(12.2) | 33(15.5) | 33(15.5) | 49(23.0) | 46(21.6) |
| 広告 | 55(25.2) | 41(18.8) | 13(6.0) | 17(7.8) | 18(8.3) | 28(12.8) | 46(21.1) |
| 映画 | 9(4.1) | 3(1.4) | 18(8.3) | 14(6.5) | 32(14.7) | 91(41.9) | 50(23.0) |
| 外国放送 | 11(5.1) | 14(6.5) | 11(5.1) | 10(4.7) | 12(5.6) | 25(11.7) | 131(61.2) |
| 衛星放送 | 39(16.3) | 33(13.8) | 21(8.8) | 12(5.0) | 20(8.3) | 20(8.3) | 95(39.6) |

問題11　あなたは次にあげるようなメディアで米国について読んだり、見たり、聞いたりすることがどの程度ありますか。

| | ほぼ毎日 | 週に2〜3回 | 週に1回位 | 月に2〜3回 | 月に1回位 | 年に数回位 | まったく見ない |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| テレビ | 295(64.7) | 93(20.4) | 38(8.3) | 13(2.9) | 6(1.3) | 4(0.9) | 7(1.5) |
| ラジオ | 143(43.5) | 84(25.5) | 48(14.6) | 16(4.9) | 7(2.1) | 12(3.6) | 19(5.8) |
| 新聞 | 222(55.0) | 99(24.5) | 42(10.4) | 15(3.7) | 8(2.0) | 4(1.0) | 14(3.5) |
| 雑誌 | 27(11.6) | 25(10.8) | 49(21.1) | 41(17.7) | 31(13.4) | 24(10.3) | 35(15.1) |
| 本 | 12(5.7) | 17(8.3) | 20(9.8) | 36(17.6) | 26(12.7) | 52(25.4) | 42(20.5) |
| 広告 | 49(22.3) | 39(17.7) | 20(9.1) | 25(11.4) | 20(9.1) | 22(10.0) | 45(20.5) |
| 映画 | 5(2.4) | 13(6.1) | 25(11.8) | 28(13.2) | 38(17.9) | 61(28.8) | 42(19.8) |
| 外国放送 | 15(7.2) | 14(6.7) | 14(6.7) | 17(8.1) | 8(3.8) | 20(9.6) | 121(57.9) |
| 衛星放送 | 37(15.4) | 41(17.0) | 15(6.2) | 13(5.4) | 12(5.0) | 20(8.3) | 103(42.7) |

問題12　A）あなたは米国、日本が好きですか、それとも嫌いですか。

1）米国

| | | |
|---|---|---|
| 非常に好き | 30 | 6.0 |
| まあ好き | 165 | 33.2 |
| どちらともいえない | 158 | 31.8 |
| 少し嫌い | 126 | 25.4 |
| 非常に嫌い | 18 | 3.6 |

2）日本

| | | |
|---|---|---|
| 非常に好き | 13 | 2.7 |
| まあ好き | 125 | 25.5 |
| どちらともいえない | 154 | 31.4 |
| 少し嫌い | 157 | 32.0 |
| 非常に嫌い | 41 | 8.4 |

B）数年前と比べて、米国、日本に対する好感度

は変わりましたか。

a．米国

| | | |
|---|---|---|
| 1. ずっと好きである | 98 | 20.3 |
| 2. ずっと嫌いである | 108 | 22.4 |
| 3. 前は好きであったが、現在は嫌いである | 44 | 9.1 |
| 4. 前は嫌いであったが、現在は好きである | 73 | 15.1 |
| 5. なんともいえない | 160 | 33.1 |

b．日本

| | | |
|---|---|---|
| 1. ずっと好きである | 41 | 8.6 |
| 2. ずっと嫌いである | 179 | 37.8 |
| 3. 前は好きであったが、現在は嫌いである | 5 | 1.1 |
| 4. 前は嫌いであったが、現在は好きである | 99 | 20.9 |
| 5. なんともいえない | 150 | 31.6 |

C）あなたは米国、日本を信頼していますか、それとも信頼していませんか。

| | 非常に信頼している | まあ信頼している | どちらともいえない | あまり信頼していない | ぜんぜん信頼していない |
|---|---|---|---|---|---|
| 米国 | 11(2.2) | 80(16.0) | 114(22.8) | 204(40.7) | 92(18.4) |
| 日本 | 1(0.2) | 71(14.3) | 123(24.8) | 218(44.0) | 82(16.6) |

問題13　A）あなたは米国人、日本人が好きですか、それとも嫌いですか。

| | 非常に好き | まあ好き | どちらともいえない | 少し嫌い | 非常に嫌い |
|---|---|---|---|---|---|
| 米国人 | 31(6.1) | 200(39.5) | 180(35.6) | 83(16.4) | 12(2.4) |
| 日本人 | 11(2.2) | 140(27.8) | 169(33.5) | 144(28.6) | 40(7.9) |

B）あなたは米国人、日本人を信頼していますか、それとも信頼していませんか。

| | 非常に信頼している | まあ信頼している | どちらともいえない | あまり信頼していない | ぜんぜん信頼していない |
|---|---|---|---|---|---|
| 米国人 | 13(2.6) | 124(24.9) | 147(29.5) | 153(30.7) | 61(12.2) |
| 日本人 | 4(0.8) | 77(15.7) | 159(32.3) | 181(36.8) | 71(14.4) |

問題14　あなたは米国、日本のことをどの程度知っていますか。

| | よく知っている | 少し知っている | あまり知らない | ぜんぜん知らない |
|---|---|---|---|---|
| 米国 | 10(2.0) | 213(42.4) | 238(47.4) | 41(8.2) |
| 日本 | 6(1.2) | 209(41.6) | 253(50.4) | 34(6.8) |

問題15　あなたは中国、米国、日本の国力をどう思いますか。

a．経済力

| | 非常に強い | まあ強い | どちらともいえない | 少し弱い | 非常に弱い |
|---|---|---|---|---|---|
| 中国 | 54(10.9) | 181(36.6) | 41(8.3) | 183(37.0) | 36(7.3) |
| 米国 | 310(63.0) | 142(28.9) | 37(7.5) | 2(0.4) | 1(0.2) |
| 日本 | 244(49.8) | 198(40.4) | 42(8.6) | 5(1.0) | 1(0.2) |

b．政治力

| | 非常に強い | まあ強い | どちらともいえない | 少し弱い | 非常に弱い |
|---|---|---|---|---|---|
| 中国 | 164(33.0) | 218(43.9) | 42(8.5) | 58(11.7) | 15(3.0) |
| 米国 | 255(52.6) | 159(32.8) | 61(12.6) | 6(1.2) | 4(0.8) |
| 日本 | 46(9.5) | 241(49.8) | 118(24.4) | 69(14.3) | 10(2.1) |

c．軍事力

| | 非常に強い | まあ強い | どちらともいえない | 少し弱い | 非常に弱い |
|---|---|---|---|---|---|
| 中国 | 79(16.0) | 246(49.9) | 61(12.4) | 85(17.2) | 22(4.5) |
| 米国 | 358(73.2) | 91(18.6) | 37(7.6) | 3(0.6) | 0(0.0) |
| 日本 | 42(8.7) | 159(33.0) | 138(28.6) | 121(25.1) | 22(4.6) |

問題16　中国にとって最も重要な国あるいは地域はどこだと思いますか。

| | | |
|---|---|---|
| 米国 | 307 | 61.4 |
| EC | 70 | 14.0 |
| 日本 | 79 | 15.8 |
| ロシア | 25 | 5.0 |
| その他 | 19 | 3.8 |

# ＜付録3＞
## 日本調査の調査票（関連部分）

**次に、日本と近隣諸国の間の国際関係についておたずねします。**

**問18**　現在、日本とアメリカ、中国との間でどのような問題がもっとも重要な懸案事項になっていると思いますか。

(1) まず、**日本とアメリカ**との間では、どのようなことがもっとも重要な懸案事項になっていると思いますか。どんな問題でも結構ですから、なるべく具体的にご記入ください。

| |
|---|
| |

(2) 現在、**中国と日本**との間では、どのようなことがもっとも重要な懸案事項になっていると思いますか。どんな問題でも結構ですから、なるべく具体的にご記入ください。

| |
|---|
| |

(3) 現在、**中国とアメリカ**との間では、どのようなことがもっとも重要な懸案事項になっていると思いますか。どんな問題でも結構ですから、なるべく具体的にご記入ください。

| |
|---|
| |

**問19**　あなたは、次にあげるメディアを通じて、**アメリカについて**どの程度見たり聞いたり読んだりしていますか。それぞれのメディアごとにあてはまる番号を1つだけ選んで○をつけてください。

| | ほとんど毎日 | 週に2、3回 | 週に1回位 | 月に2、3回 | 月に1回位 | 年に数回位 | まったく見ない |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| (1) テレビのニュース | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| (2) テレビのコマーシャル | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| (3) テレビのドラマ、映画 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| (4) 新聞記事 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| (5) 雑誌の記事 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| (6) 本 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |

**問20**　あなたは、次にあげるメディアを通じて、**中国について**どの程度見たり聞いたり読んだりしていますか。それぞれの情報源ごとにあてはまる番号を1つだけ選んで○をつけてください。

| | ほとんど毎日 | 週に2、3回 | 週に1回位 | 月に2、3回 | 月に1回位 | 年に数回位 | まったく見ない |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| (1) テレビのニュース | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| (2) テレビのコマーシャル | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| (3) テレビのドラマ、映画 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| (4) 新聞記事 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| (5) 雑誌の記事 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |
| (6) 本 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 |

**問21** あなたは、次の2国間の関係は、現在どの程度**良好**だと思いますか。それぞれの2国関係について、あてはまるものを1つだけ選んで○をつけてください。

| | 非常に良い | かなり良い | どちらともいえない | かなり悪い | 非常に悪い |
|---|---|---|---|---|---|
| (1) 日本とアメリカ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (2) 日本と中国 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (3) アメリカと中国 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

**問22** では、次の2国間の関係は、現在どの程度**重要**だと思いますか。それぞれの2国関係について、あてはまるものを1つだけ選んで○をつけてください。

| | 非常に重要 | かなり重要 | どちらともいえない | あまり重要ではない | まったく重要ではない |
|---|---|---|---|---|---|
| (1) 日本とアメリカ | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (2) 日本と中国 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |
| (3) アメリカと中国 | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 |

**問23** あなたはアメリカがどの程度好きですか。

1. とても好き　2. まあ好き　3. あまり好きではない　4. 嫌い　5. どちらともいえない

**問24** あなたは中国がどの程度好きですか。

1. とても好き　2. まあ好き　3. あまり好きではない　4. 嫌い　5. どちらともいえない

**問25** あなたはアメリカと中国について、どの程度知っていると思いますか。それぞれの国について、あてはまるものを1つだけ選んで○をつけてください。

| | よく知っている | ある程度知っている | あまりよく知らない | まったく知らない |
|---|---|---|---|---|
| (1) アメリカについて | 1 | 2 | 3 | 4 |
| (2) 中国について | 1 | 2 | 3 | 4 |

**問26** あなたには、アメリカ人や中国人で日頃から親しくしている知人や友人がいますか。次の中であてはまるものにいくつでも○をつけてください。

1. 親しいアメリカ人がいる
2. 親しい中国人がいる
3. 親しいアメリカ人や中国人はとくにいない

**最後に、あなたご自身のことについておたずねします。**

**F1** あなたの性別は

1. 男　2. 女

**F2**　あなたの年令は

| | | |
|---|---|---|
| 1.20～29歳 | 3.40～49歳 | 5.60歳以上 |
| 2.30～39歳 | 4.50～59歳 | |

**F3**　あなたが最後に卒業された学校はどこですか（中退、在学中も含みます）。

| | |
|---|---|
| 1. 旧制小、高等小、新制中学校 | 5. 高専、短大 |
| 2. 新制高校、旧制中学、旧制高女 | 6. 大学、大学院 |
| 3. 旧制高専、旧制高校 | 7. その他（　　） |
| 4. 専修学校 | |

**F4**　あなたの現在のお仕事は、この中のどれにあたりますか。

| | | | |
|---|---|---|---|
| 1. 自営業経営 | 4. 管理的職業 | 7. 主婦（専業） | 10. 無職 |
| 2. 自由業 | 5. 事務、販売 | 8. 主婦（パート） | 11. その他 |
| 3. 専門技術職 | 6. 労務職 | 9. 学生 | （　　） |

# ＜付録４＞
## 米国調査の調査票（関連部分）

22. Now I'm going to ask you some questions about international affairs. What is the most important problem between the United States and Japan at this time?

PROBLEM: _____

22a. What can you tell me about this problem? _____

23. What is the most important problem between the United States and China at this time?

PROBLEM: _____

23a. What can you tell me about this problem? _____

24. How about the most important problem between Japan and China at this time?

PROBLEM: _____

24a. What can you tell me about this problem? _____

25. How often would you say you read about, hear about, or see reports about Japan or Japanese society in the following media? Would you say almost every day, about 2–3 times a week, once a week, 2–3 times a month, once a month, less than 5–6 times a year, or not at all? Let's start with: (REPEAT CATEGORIES AS NECESSARY)

| | Almost every day | 2−3 times a week | once a week | 2−3 times a month | once a month | less than 5–6 times a year | not at all | DK/NA |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| a. Television news? | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 9 |
| b. Television commercials? | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 9 |
| c. Television drama/movies? | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 9 |
| d. Newspapers? | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 9 |
| e. News Magazines? | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 9 |
| f. Books/other magazines? | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 9 |

26. Using the same answer categories, to what extent do you read about, hear about, or see reports about China or Chinese society in the following media?

| | Almost every day | 2−3 times a week | once a week | 2−3 times a month | once a month | less than 5−6 times a year | not at all | DK/NA |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| a. Television news? | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 9 |
| b. Television commercials? | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 9 |
| c. Television drama/movies? | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 9 |
| d. Newspapers? | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 9 |
| e. News Magazines? | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 9 |
| f. Books/other magazines? | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 9 |

27. Now I'd like you to evaluate the present relationships among the United States, Japan and China. Would you say the relationship is very good, fairly good, neither good nor bad, fairly bad, or very bad between:

| | Very good | Fairly good | Neither good nor bad | Fairly bad | Very bad | DK/NA |
|---|---|---|---|---|---|---|
| a. United States and Japan? | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 9 |
| b. United States and China? | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 9 |
| c. Japan and China? | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 9 |

28. How do you evaluate the importance of the present relationship among these same countries? Is it very important, fairly important, neither important nor unimportant, not very important, or not at all important?

| | Very important | Fairly important | Neither | Not very important | Not at all important | DK/NA |
|---|---|---|---|---|---|---|
| a. United States and Japan? | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 9 |
| b. United States and China? | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 9 |
| c. Japan and China? | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 9 |

29. Now I'd like to ask you how you feel about some countries. Please tell me whether you like the country I name a lot, like it somewhat, feel natural, dislike it somewhat, or dislike it a lot:

| | Like a lot | Like somewhat | Neither | Dislike somewhat | Dislike a lot | DK/NA |
|---|---|---|---|---|---|---|
| a. Japan? | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 9 |
| b. China? | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 9 |
| c. Canada? | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 9 |
| d. Mexico? | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 9 |

30. Thinking now about these countries one last time, how knowledgeable are you about them? Would you say you are very knowledgeable, fairly knowledgeable, not very knowledgeable, or not at all knowledgeable about:

| | Very | Fairly | Not very | Not at all | DK/ NA |
|---|---|---|---|---|---|
| a. Japan? | 1 | 2 | 3 | 4 | 9 |
| b. China? | 1 | 2 | 3 | 4 | 9 |
| c. Canada? | 1 | 2 | 3 | 4 | 9 |
| d. Mexico? | 1 | 2 | 3 | 4 | 9 |

44. What was the last year of school you completed, not counting specialized schools like secretarial, art or trade schools?

00. None
01.
02.
03.
04.
05.
06.
07.
08. Elementary school graduate
09.
10.
11.
12. High school graduate
13.
14.
15.
16. College graduate
17. Attended graduate school, no degree
18. Earned graduate degree
99. Don't know

45. What is your age?

_____ years old

00. Refused

46. Which of the following categories best describes your household income from all sources and before taxes? (READ 1–8 ON LIST BELOW.)

1. Under $15,000
2. Under $25,000
3. Under $35,000
4. Under $45,000
5. Under $55,000
6. Under $65,000
7. Under $75,000

8. $75,000 or more
0. Refused
9. Don't know

47. What is your race? Are you white, African–American, or a member of another racial group?
1. Caucasion or white
2. African–American
3. Other (SPECIFY)
4. Mixed
9. Refused/No answer

48. What is your residential Zip Code?
43 _____

49. Sex of respondent?
1. Male
2. Female

50. Date of interview?
October _____

51. Time of day interview began? (CHECK ONE)
1. _____ a. m.
2. _____ p. m.

52. Length of interview in minutes?
_____ minutes